

東光寺石造地藏菩薩坐像及び台座

(とうこうじ せきぞうじぞうぼさつざぞう および だいざ)

板橋区登録有形文化財(歴史資料) 平成8年3月8日登録

この地藏は、享保4年(1719)に沙門観堂と称譽観靈の二人が願主となり、東光寺十四世住職豊誉上人が導師となって造立されたもので、総高が285cmを超える区内最大の石造仏です。須弥壇の正面には観堂作の漢詩が、右面には同じく観靈が奉納した経典名が、左面には導師豊誉上人の名が刻まれています。また、礎石部分には寄進者として、豊田次郎右衛門や伊勢屋九兵衛などの板橋宿の住人や、田村三右衛門などの加賀藩下屋敷の関係者、滝野川の山田久七や王子村の宇右衛門など周辺に住む人の名があり、多様な身分階層の人々が亡くなった家族の後生を祈るために造立したことがわかります。

なお、『板橋町誌』(大正13年発行)には、本地蔵が、観靈によって享保4年に平尾の一里塚上(現、板橋一丁目54番辺り)に造立されたものが、明治10年(1877)8月に塚の取り壊しとともに当寺に移されたと記されています。この時は、現在の本堂に向かって右手の墓地の辺りに安置されましたが、戦後になって区画整理等により境内が整理された際に現在の場所に移されました。

所在地:板橋区板橋4-13-8 東光寺

交通:都営三田線「新板橋駅」徒歩8分

東武東上線「下板橋駅」徒歩9分

国際興業バス「仲宿」徒歩4分

[池袋駅西口⇄高島平操車場・高島平駅(池20・池21)]

